



# 編集部が見つけた お宝クルマ

W124と言えば、いまでも多くのファンを持つ人気モデルだ。ただし、生産終了からすでに10年以上が経つだけに程度のいい車両を探し出すのは難しい状況と言えよう。でも可能性はゼロではない。例えば編集部が見つけた300CE-24。もちろんこれは新車ではない。



## Mercedes-Benz 300CE-24



全長4655×全幅1740×全高1400mm、車重1570kgのボディを引っ張る3ℓ直6は225ps・27.6mkgのパワーとトルクを発揮。5段ATを介して後輪を駆動する。  
車両協力=arj(92年式 300CE-24 走行3.6万km 価格148万円) Tel.03-3704-7177  
<http://www.arjapan.co.jp>

W124のなかのスペシャルモデル的な存在として知られているのは5ℓV8を搭載する500E/E500だが、直6搭載車にも希少価値の高いスポーツモデルが存在するのをご存じだろうか。クーペボディを持つ300CE-24である。

UCG読者ならモデル名の末尾につく24という数字が24バルブを意味していることはすでにご存じだろう。300系6気筒ユニットのブロックを流用して、ヘッドを4バルブ化しているのだ。基本的には300SLに積まれているものと同じと考えていいだろう。その回転感覚は、他のW124とは一線を画す。100m走っただけでも違いを実感できるが、圧巻は4000回転付近を超えてからだ。アクセルペダルをさらに深く踏み込むと、一段とシャープさを増して7000回転のリミットまで一気に回る。その気持ちいいスムーズネスは、ライバルの“シルキーシックス”を凌いでいるかもしれない。まさしくカムに乗った感覚を存分に味わえる。さらに、W124では初となったSL譲り

の5段ATも忘れてはならないピックアップだ。ドッシリとした安定感とシャープに回るパワーユニット、そして5段になったATの余裕、これらが渾然一体となって生み出す“走り”の総合力は500Eに迫るとしても過言ではないだろう。

ところで、とにかくサンプルカーのオドメーターを見て驚いた。なんと、3.6万kmなのだ。内外装にもほとんど使用感がないのは奇跡的である。クルマのことに疎い人に「新車だよ」と乗せてもたぶん気付かれないと思う。まだ、こんなW124が人知れず眠っていたのだ。しかも、希少な300CE-24。これぞ、お宝クルマ!

ストックしていたのはW124を多く扱うarj。担当者は「予防整備と定期点検、そして消耗品の交換をきっちり行なっている個体なので、まず2年くらいは手間のかかるメンテナンスの必要はないでしょう」と話す。

自身もW124のファンと言う同社の社長にその魅力を訊くと、「後継モデルのW210やW211

も実用車として見ればいいクルマであることに間違いはありません。でも、メルセデスらしい濃厚な乗り味はかなり薄まってしまいましたよね。W124の味を知っている人にはもの足りないと思いますよ」という答が返ってきた。僕はW124ファンではないが、まったく同感である。クラシカルなフロントグリルとボディラインもカッコいいと思う。できればW123の雰囲気が残る前期型のグリルがいい。Arjではよりマニア度の高いその前期型を積極的に揃えるようにしているそう。好きな方は、連絡してみる価値のあるスペシャルショップである。

Text: 野田義彦/Photo: 丸山博人

